

イデロー会……日韓交友……

紹介者



大平 晃氏

三菱ガス化学 取締役会長



奥村 晃三氏

大日本インキ化学工業 相談役



次回は

出原 洋三氏

(日本板硝子 取締役会長)
にご登場いただきます。

日 本人6名と韓国人4名で構成する小さな友の会の名称である。「イデロー」とはハングル語で「変わらぬもの」「いつまでも続くもの」という意味で、友情等が長続きすることを表現している。

そもそも30数年前に合弁会社を設立した日韓両国の化学会社、商社及び取引関係にあったメンバー有志でスタートした会である。

少ない人数に絞っているのは、ワゴン車1台で移動可能なことと、コンドミニウム等を利用しながら両国の料理を自炊体験したり、観光、ゴルフにも適しているからに他ならぬ。

韓国内において、何故か外資による事業の成功例が少ない。進出と撤退の歴史の繰り返しであるが、我々の合弁事業が上場をはたし今日まで継続しているのは、韓国側パートナーであり愛敬グループの総帥であるマダム張の人柄によるところ大である。合弁事業の成否を決めるのは関係者の信頼関係であることは古今東西を問わない。宗教、文化、食生活等。儒教、仏教の歴史を引き継ぎ、箸と匙を使用し、演歌に親しむ両国の共通点を考えれば至極当然と思うが、意外とお互いに苦手意識が強い。歴史的に過去の不幸な出来事に由来する「^{しこり}痼」と「^{えん}怨」。

豊臣秀吉時代の釜山^{プサン}上陸から1910年の日韓併合に至るまで、歴史を遡る韓国人も多い。

事実、韓国の修学旅行のメッカである慶州^{キョンジュ}仏国寺^{ブルグクサ}の案内板に、日本による伽藍や文化財焼却の記述がなされており、歴史的事実と教育とのバランスの難しさを痛感する。

イデロー会の移動と会食の時間に議論されるのは、眞の日韓友好のあり方、アジア経済圏、FTA、北朝鮮問題、そして子供たちの教育問題等話題に事欠かない。

最近の日本国内の社会問題として、親子、兄弟、学友間の信じがたい事件が続いている。しかし一方では、韓国の子供たちが、乗物等で当然のように年配者に席を譲り、目上の人への敬愛の念を示す姿を見ていると、日本の教育に欠けてしまった「ホスピタリティ」の育成と、子供たちの健全な成長を支援する家庭と社会の再構築が急務であると感じざるを得ない。

昨年9月に韓国東北部のソラクサン^{ソラクサン}ソクチョ^{ソクチョ}雪岳山、東草港を訪問、そしてコソ^{コソ}高城統一展望台より北朝鮮のクムガンサン^{クムガンサン}金剛山を望んで来た。張り巡らされた鉄条網越しに見えた海の青さと砂の白さが目に焼きついて離れない。美しい自然を守るためには、鉄条網で囲わなければ無理な時代になったのか！